

(様式2)

令和 5 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1591700222		
法人名	特定非営利活動法人 みどり心育会		
事業所名	グループホームみどりの家		
所在地	新潟県五泉市村松甲5600番地1		
自己評価作成日	令和5年9月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和5年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和4年9月、みどり心育会4ユニット目のグループホームとして「みどりの家」が法人の広い敷地内に誕生しました。敷地内には特別養護老人ホーム、居宅介護支援センター、小規模多機能ホーム、デイサービス、2ユニットのグループホームがあり、また、車で5分の場所にあるグループホームも合わせ、事業所間の連携を取ることが出来ています。

五泉市村松は自然豊かな地域で、事業所の周りには多くの緑に囲まれています。ご利用者が四季の移ろいを感じながら安心、安全の中で心地よく生活できる場所です。春、自慢の夫婦桜が満開になる美しさは格別で、敷地入口にたたずまれる観音様に見守られご利用者の皆さまが散歩を楽しまれています。コロナ禍以前、夏には地域の方の協力を得ての納涼祭、秋には地域の方もご招待しての芋煮会や文化祭と、にぎやかに地域との交流を行っていました。コロナ禍で合同行事は中止が続いておりますが、事業所ではご利用者の皆さまにお楽しみいただけるよう、感染防止に努めながら出来る事を職員が工夫しています。また、法人系列のこども園の園児が事業所を訪問して敬老会、ハロウィンなどのお楽しみ会をしたり、園児からカレンダーを毎月届けてもらったり、世代間交流も盛んです。

グループホームが大事にしていることのひとつに昔から行われてきた行事、それに伴う郷土の食事など伝承文化を受け継いでいくことがあります。ちまき、梅干し、おはぎなど、昔話に花を咲かせながらご利用者と一緒につったり、「大黒様の嫁取り」行事では、謂れを聞きながら豆料理を堪能したり、日常に取り入れることでご利用者の皆さまの生活に潤いを見出すことを目標としています。

職員研修については、年間計画に基づき毎月実施しています。認知症ケア、接遇、感染症、非常時の対応、身体拘束および虐待防止などの内部研修を行い、外部研修も出来る限り参加できるよう勤務調整を図っています。また、向いにある新潟県立村松高校が開催する福祉についての講演会に講師として出向き、若い世代に介護への理解を持ってもらえるよう伝えております。

防災訓練については、火災・地震等を想定した訓練、防犯訓練、AEDの使用方法を含む普通救命講習会の受講を通して、ご利用者の安心、安全を第一に考え支援に活かせるよう職員は自己研鑽に努めております。地域との連携、協力を重要と考え取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理事長が経営していた繊維工場の跡地で、工場社屋を改修し地域密着型特別養護老人ホーム、グループホーム、小規模多機能型居宅介護などが運営されており、「福祉の里」が作られている。当グループホームも法人として4番目のグループホームとして令和4年9月に開設された。

以前、繊維工場に勤めていたことのある利用者、道路を挟んで目の前にある高校に自身や子どもが通っていたことのある利用者などがおり、様々な縁や馴染みのある場所で、利用者は居心地良く落ち着いて過ごすことが出来ている。

事業所周辺には自然も多く四季折々の風景を間近に感じられる。

法人グループホーム4事業所の共通理念である「受容・尊敬・共生」は、職員一人ひとりに確実に根付いており、理念に基づき利用者中心のケアが実践されている。また、郷土の慣習や行事を大切にし、利用者の生活場面や食事に取り入れる取り組みにより、利用者には大変喜ばれ、生活の質の向上につながっている。

開設間もない事業所ではあるが、管理者を中心に行き届いたケアの実践が行なわれていた。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「受容・尊敬・共生」の運営理念を基とし、事業所目標に沿った支援を行っている。職員がいつも確認できるよう事務所に掲示し、職員会議の時に共有し実践につなげている。	法人のグループホーム4事業所が共通理念として掲げる「受容・尊敬・共生」は、日常のケアの中に根付いており、個々の職員にもしっかりと意識付けされている。理念を礎とし、より具体的な事業所目標を立案し、目標に添った支援が行なわれている。事業所目標については、毎月の職員会議で都度確認するとともに、年度末には達成状況の振り返りも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年納涼祭、いも煮会、こども園との交流、地域合同防災訓練など地域の方との交流を行っている。馴染の商店街や理容店などとも繋がりを大切にしている。	コロナ禍前に実施していた地域との交流事業は全面再開とはいかないが、少しずつ通常に戻せるように検討している。理事長が同地域の住民であることもあり近隣との関わりは深く、最近でも地元東南青年会日枝神社祭礼の神輿が立ち寄り交流が行なわれた。事業所の作品展開催を回覧し、地域の方に観覧してもらえようお知らせしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設向かいにある村松高等学校において認知症の理解や支援の方法について研修を行った。高齢者疑似体験、車椅子の操作を実際に行ってもらうことで介護への関心が高まったと感じた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回定期的に運営推進会議を開催し、現況報告を行っている。委員の皆様から活発なご意見を頂きサービスの向上に活かしている。	利用者、利用者家族、地域の代表、市の福祉課、協力医院医師、薬局薬剤師など多彩な参加者の集まりも良く、有益な会議が開かれている。参加者全員に発言を求めることで、形式だけの会議とならないように進めている。専門職の参加により、直接処遇に係る情報を入手することが出来ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には五泉市、地域包括支援センターの職員から参加頂いている。事業所の実情や取り組みについて助言を頂きサービス向上に努めている。	市職員および包括支援センター職員が運営推進会議に参加しているため、行政としての意見を直接聴き取ることができる。手続きや運営に関する質問などでは、直接訪庁することも多く、顔の見える関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を開き、身体拘束を行わないことに理解をし、職員全員で振り返り、コミュニケーションを取っている。玄関の施錠含め拘束は行わないケアに努めている。	玄関は防犯のための夜間施錠のみで日中は常に開放されている。出入りはセンサーチャイムで把握し、利用者の動きを制止することなく、自然に付き添うようにしている。センサーマット等の福祉用具の使用もなく、身体拘束の排除に努めている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年4回研修を行い身体的な虐待だけでなく、心理的、不適切ケアについても職員間で話し合い、理解し防止に努めている。	不適切ケアやケアのグレーゾーンについて学ぶ機会を設け、報道に出てくるような事例だけが虐待ではないことを職員に周知している。また年に2回、自己評価表を用い自らの業務に対する姿勢の振り返りを行なっている。定期的なストレスチェックも行ない、職員のメンタルヘルスへも配慮している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を行い、日常生活自立支援事業や成年後見制度を学んでいる。以前、入居前の利用者について包括支援センターに相談したが、活用には至らなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際は十分に説明し、同意を頂き書面を交わしている。ご本人、家族からの疑問には納得していただけるよう丁寧に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族には自由に意見を言える雰囲気作りを努めている。来所時、電話、メールでも意見を伺い反映させている。玄関に相談箱を設置し直接言いにくいことも伝えられるよう工夫をしている。	家族来訪時の意見交換が主ではあるが、玄関口への相談箱の設置や電話、メールでの連絡時も併せて、積極的な意見や要望の聴き取りに努めている。利用者からは、日常の生活の中から聴き取りに努め、可能な限り反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は月に一回の職員会議に出席し職員からの意見、提案等聞いている。管理者は職員の年二回個別面談を行い意見を反映させている。またコミュニケーションを図っている。	職員間のコミュニケーションが密に取られており、意見や要望を言いやすい職場環境となっている。毎月の職員会議には必ず理事長が出席し、職員からの意見や要望を直接吸い上げることが出来ている。日勤帯の休憩時間が上手く取れないとの意見から、業務を見直ししっかりと所定の休憩時間を取るよう取り決めたこともあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者が行う職員の聞き取りや個人面談から要望等聞き、思いを汲み取り働きやすく向上心を持てる職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の合同研修会を開催している。外部から講師を招き、研修参加の機会を設けたり、勤務状況を配慮しリモート研修なども行っている。様々な資格習得なども推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年、市内のグループホーム連絡会議の定期開催を行っていたが感染対策のため現在は行われていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時に、本人から過去に困ったこと、現在困っていること、心配なこと、今後の要望等聞き、安心して生活できるよう配慮しながら関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談時に、家族が現在困っていること、不安に思っていること、日常生活の様子等、十分に話せるよう雰囲気作りに努め、思いを受け止め安心できるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居段階において、必要なサービスができるよう前担当者、相談員と連携し情報収集を行い、安心して利用できるよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と生活を共にしているという中で、できる事、やりたい事は積極的に行っていた感謝し、苦手な事、困難なことは一緒にやり出来た時には喜びを分かち合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子を近況報告の手紙、面会時、電話などで家族に伝えている。受診同行、外出支援等お願いし、家族とともに支援できる関係を大切にしている。	利用者の近況報告を居室担当の直筆で手紙にし、毎月家族のもとに届けている。受診や個別の外出は家族の役割としてお願いし、協力を促している。趣味や活動をグループホームでも続けられるように、道具、材料などを用意してもらい持参していただくなど、共に支え合う関係の継続に努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理髪店への通いや地元商店への買い物希望があれば、感染対策しながら関係性が途切れないよう支援に努めている。	事業所の建物は以前は繊維工場を営業していた跡地であり、地域の住民にとって馴染み深い場所である。工場に勤めていた利用者がいたり、真向かいにある村上高校に縁のある利用者もいたりし、昔を懐かしみながら心穏やかに過ごせる環境が整っている。馴染みの商店街、理髪店、公共施設へも出掛け、馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が情報を共有し、利用者同士の関係の把握に努めている。利用者同士の会話に入らず孤立している場合などは仲介に入るなど配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も退去後の経過を知らせてくださる家族に温かく接している。希望があれば必要時相談や情報提供等協力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や希望を把握し介護計画に反映させ職員同士情報共有している。また、日々の関りから利用者の思いや希望の把握に努め、ケース記録、気付きノートの活用などで情報共有にも努めている。	ケアの中で気付いたことをその場で付箋に記し、ノートに集めていく「気付きノート」の取り組みを最近始めた。新たな気付きや視点を職員全員で共有でき、ケア会議の際の検討材料として活用されている。意思表示の難しい方の思いや意向については、その人に寄り添い代弁できるよう推察している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報シート、聞き取りから、一日の過ごし方を把握しながら、前ケアマネージャー、利用していた事業所、家族等から情報を伝えてもらうよう努めている。自宅訪問時に生活環境を把握している。	入居前の事前面接は自宅へ訪問し、生活状況、生活の動線、馴染みの暮らし方などを実際に見て把握している。訪問時には「センター方式」アセスメント様式の未記入シートを家族に渡し、わかる範囲で記入していただくようお願いし、情報の収集、これまでの暮らしの把握に役立っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の毎日の表情や言動、「いつもと違う」という気付きを感じ取り、心身状態、一日の過ごし方の把握に努めている。生活記録、連絡簿、バイタルチェック、排泄記録などの情報共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施し、三ヶ月に一回カンファレンスを行っている。本人、家族の意向、職員の意見など集約し介護計画を作成している。家族とは面会時、受診付き添い時等、話し合いの場を設けている。	アセスメントは「センター方式」の24時間シートを使用し、利用者の生活の中での課題抽出が出来ている。また、毎月のモニタリングと3ヶ月毎のケースカンファレンスにより、きめ細かな振り返りが行なわれている。ケアプランには、家族や主治医、薬剤師などの役割も位置付けられており、チームでの支援が実現されている。	コロナ禍もあり家族の来所によるケアプランについての話し合いは中止している。家族、利用者共にケアプランの作成段階における意向確認はしっかりと行なわれているが、話し合いの場に参加してもらうことは実施されていなかった。サービス担当者会議としての位置づけで行なわれるケースカンファレンスのケアプラン更新時には、当事者である利用者の参加について検討することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録、連絡簿、バイタルチェック等毎日記録している。生活記録については、受診、受診結果、利用者の変化が見られた時、レクリエーションでの様子など細かく記録し、職員間で共有し、介護計画見直し、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	嘱託医の往診の他、定期受診、家族対応が困難時の受診、希望による外出等柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染症予防のため制限をしながらも馴染みの場所への外出、美容師の訪問、散髪など、地域の力を借りた取り組みを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医の往診の他、かかりつけ医への受診時には情報提供を行いアドバイスを頂いている。受診結果は家族と情報共有を行っている。	事業所の協力医が定期的に往診してくれることから、半数以上の方がかかりつけ医にしている。また薬局とも居宅療養管理指導の契約を利用者が結び、薬剤管理から処方薬の配達まで担ってもらっている。元々のかかりつけ医を継続している方の受診は家族が行い、各医療機関とのやり取りは書面や電話などを使い、情報の共有に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急な体調不良など必要時は関係法人事業所の看護師に頼んでいる。適切な受診、看護が受けられるよう相談、助言を受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	契約時に医療機関への情報提供のご理解を得ている。入退院時には相談員、ケースワーカー、医師などからの説明に同席するなどして、情報提供・交換を行い共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に介護、重度化した場合、医療体制等について家族に十分説明している。重度化した場合には家族の意向を尊重しできる限りの支援を行っている。看取りは行っていないが法人内に小規模多機能ホーム、特別養護老人ホームがある事など伝え住み替えについても相談にのり支援を行っている。	入居時の契約の際に利用者、家族には事業所の方針、重度化や終末期の対応について口頭で説明している。事業所での対応が出来ない基準は明確であるため、今後は基準について明文化し、利用者、家族に分かりやすく理解してもらえようとしていく予定である。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に家族、主治医、消防署への連絡対応などマニュアルをもとに職員全員が周知している。消防署員を講師に普通救命講習等AEDの取り扱い含め講習を受講している。また、事故報告検討会を開き事故に備え検証を行い実践力を身に付けている。	マニュアルを整備し職員全体に周知している。体調の不安定な利用者がある時は日中のうちに対応できるよう、早めに受診や主治医からの指示を仰ぎ、夜勤帯に持ち越さないようにしている。事故報告検討会では、ヒヤリハット及び事故の検証を十分に行ない、事故防止に努めている。	事象別のマニュアルが整備され対応方法が分かりやすくまとめられている。今後はさらに、職員がいつでも目にする場所へ設置したり、フローチャート等目で見て分かるまとめ方の工夫により、誰でも素早く確認できるものにしてほしい。また、それに基づき何度も繰り返しシミュレーションを重ね、有事に備えることを期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として、火災、地震、山崩れなどの災害訓練を定期的実施し職員全員が身につけている。年に2回消防署員立ち会いのもと総合防災訓練を行い、防災意識の向上と実践力を身につけている。。地域の青年会とも協力体制ができている。	防災訓練は毎月実施され、火災、地震、土砂災害ほか様々な想定により行われている。同敷地内のグループホームとも災害時の協力体制をとっている。地域の青年会との協力の中で連絡網に入れてもらっており、災害時には避難協力を得られる関係が出来ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営理念、接遇研修等人格の尊重を念頭に誇りやプライバシーについて配慮した言葉掛けや対応を行っている。方言や敬語の使い分けにも配慮している。	部屋番号が番地で示されており、申し送りや打ち合わせの際には一人ひとりの名前を出さずに番地でやり取りしプライバシーに配慮している。利用者一人ひとりとのお話を大切に、その人らしい生活を実現できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で衣類の選択、食べたい物など伝えられるよう言葉かけを行っている。本人の思いや希望を決定できるよう要望を聞いたり、表情や会話の中からくみ取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や、一人ひとりのペースに合わせ支援を行っている。希望があれば散歩に出たり、ドライブに出かけたりと柔軟に対応している。希望に添えない場合は十分に説明を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみができるよう髭剃りの支援や馴染の理容室の継続など個々の希望を尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昔ながらの行事食、利用者からのリクエストを献立に取り入れている。また、地元の食材を使い提供している。調理の下準備などできる事はお願しい職員と一緒にやっている。	食事メニューは、法人内のグループホーム4事業所共通の献立の基本パターンを基に、数週間単位でのローテーションを繰り返す方法で提供している。全て手作りの食事は、味はもちろん、栄養、彩り、食べやすさなども考え作られている。献立にこだわらず、出前やカップ麺、漬物など利用者の希望も取り入れている。食材の下ごしらえや、洗い物などの後片付けを、利用者と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事量、形態に合わせて提供している。食事量は毎食ごとに記録している。午前、午後のお茶の時間には好みを聞き提供している。それ以外でも常にお茶、ポカリスエット等を用意している。水分摂取少ない方には声掛けなどで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声を掛け、一人ひとりに合わせた口腔ケア支援、見守りを行い、口腔内の清潔保持に努めている。義歯の方は夜間帯お預かりして洗浄消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が継続できるよう本人の生活リズムに合わせて、声掛けやトイレ誘導を行っている。リハビリパンツ、パットを使用されている方には日中、夜間で吸収量の違う物で使い分け不快にならないよう支援している。	ほとんどの利用者がリハビリパンツを使用しているが、使用する尿取りバットの厚さを日中と夜間とで変えたり、ポータブルトイレを使用したりと、排泄の自立に向けて支援している。可能な限りトイレで排泄できるように、声掛け・誘導を密に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表を活用している。食事内容を工夫し、水分摂取量、適度な運動を促し個別に予防に努めている。便秘の方には医師の指示、処方により対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は設定しているが、皮膚状態、入浴希望等あれば、いつでも入浴できる体制をとっている。足浴なども希望があれば対応している。季節に合わせ、菖蒲湯、ゆず湯などお楽しみいただいている。	基本は週に2回の入浴であるが、希望があれば可能な限り対応するよう進めている。汗を掻く時期には清拭や足浴を取り入れている。ゆっくりと会話を楽しみながら、温泉の素や季節ごとの変わり湯も取り入れ、楽しい入浴が行なわれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせ、安心して眠れるよう、空調、照明、室温等配慮している。夜間眠れない方にはお話を聞き、安眠できるよう対応している。日中の休息では個人のペースを尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時、往診時に本人の状態を主治医に伝え症状にあった薬が処方されている。薬の目的について理解し、変更があった場合はケース記録、連絡簿に記入し全職員把握している。誤薬防止に二重チェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴からできる事、得意な事、好きな物事など把握し、日常生活やレクリエーションなどに楽しみを持って参加できるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の生活の中で、希望に沿って散歩やドライブ、花見等出かけられるよう支援している。自宅への帰省には感染症対策を考えながら家族から協力を得て対応している。外の空気、季節の移ろいを感じて頂きながら思いに沿えるよう努めている。	年間の行事計画に添って出掛けている。外出はコロナ禍の影響により縮小しながらも工夫しながら継続している。春のお花見、外食ツアー、紅葉狩りなどのほかにも、利用者の行きたい場所の希望に応えられるように、家族と協力し、その都度計画し出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物忘れ、紛失の心配があるため個々での金銭の所持は難しいが、利用者の能力によっては所持している方もおられる。日用品等の個人的な支出は立替で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用したい時は事務所の電話でいつでも話ができるよう支援している。遠方に住んでいる家族へ手紙を出される方もおられ、切手の購入、手紙の投函等支援している。携帯電話を持っておられる方には操作等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるよう季節の花を飾ったり、ホールや廊下の壁には利用者と創作した季節の貼り絵、塗り絵、作品等飾っている。明るく清潔で快適な環境で過ごせるよう室内の換気や湿度、温度の調整をこまめに管理している。	「環境衛生委員会」が中心となつて行なう「4S活動」により事業所内の整理整頓、清潔が保たれている。利用者と共に作成した季節ごとの貼り絵や折り紙などの作品は壁を彩り、室内にいながら四季を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性に配慮し、食席の配置を工夫している。テレビ前のソファは気兼ねなく自由にくつろいで頂けるようお勧めしている。個々に合わせたりリラックスできる環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やテレビ、本、好みの飾りなど持ってきて頂き居心地よく過ごせるよう工夫している。安全に配慮し配置している。	入居手続きなどで自宅に訪問した際に、馴染みの物や自宅内の動線を確認し、グループホームの居室に取り入れられるよう考えている。危険物(ハサミ、刃物等)、貴重品(通帳、お金、印鑑等)以外は何でも持ち込みが可能であり、利用者それぞれの個性ある居心地の良い居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内、トイレ、廊下、浴室には手すりが設置されており自力歩行が継続できるよう環境を整えている。トイレはわかりやすいイラストで表示されており、表札も名前を表示し分かりやすくしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				